

2008 年度

科目名 古文書学 B	対象学科・学年 文学部文財 2回生	担当者 山中 浩之
授業テーマ 古文書を通して歴史を読む。		
授業の概要と目標 私たちは日々文書を作成し授受している。何のためか、私たちの意志を特定の人や機関に伝達し、それに対する相手の反応や応答に期待し、そのことを通して何らかの問題を解決し新たな社会的関係を築いていくためである。昔も今も人々はそのようにして文書を作成し授受してきた。しかしその際、誰が誰に対して書くか、また時代の社会関係によって、その作成の仕方や書体が異なっていた。古文書を通してその違いを見ることは時代における人と人の関係の仕方や生き方を知ることでもある。大は国家との関係から、小は家族との交流に及ぶ。しかしまず古文書を読む面白さを知ってほしい。		
評価方法 平常点を重視し、試験・レポートを加えて総合的に評価		
テキスト くずし字解説辞典	著者	出版社 東京堂
参考書 『概説古文書学近世編』、『演習古文書選 近世編』、『暮らしの中の古文書』	著者	出版社 吉川弘文館
授業スケジュール・内容 原則として古文書学 B の受講者は古文書学 A を履修したものとする。 1. 古文書を通して生活を読む。以下のなかから 2, 3 を重点的に読む。 1. 生活行事 2. 触書 3. 商家家訓 4. 町式目 5. 村掻 6. 道中記 7. 地震災害 8. 疫病の流行 2. 古文書を通して人の一生を読む。以下のなかから 2, 3 を重点手に読む。 9. 誕生 10. 成長儀礼 11. 学びとあそび 12. 芸の修得 13. 結婚と離婚 14. 出産 15. 家業の営み 16. 病気 17. 臨終と死		